

7/15 予稿

日米訓練 全国に米戦闘機展開

米軍のインド太平洋地域での大規模演習「ノーヴァン・エッジ23」(2~21日)の一環となる日米共同訓練が4日始まりました。

米軍嘉手納基地(沖縄県嘉手納町)にF-35Aステルス戦闘機を含む30機が展開するなど全国で実施されます。

期間中、嘉手納基地には米アラスカ州イールソン空軍基地所属のF-35Aが12機、米軍岩国基地(山口県岩国市)からF-18戦闘攻撃機12機、米

"全土が戦場化"想定

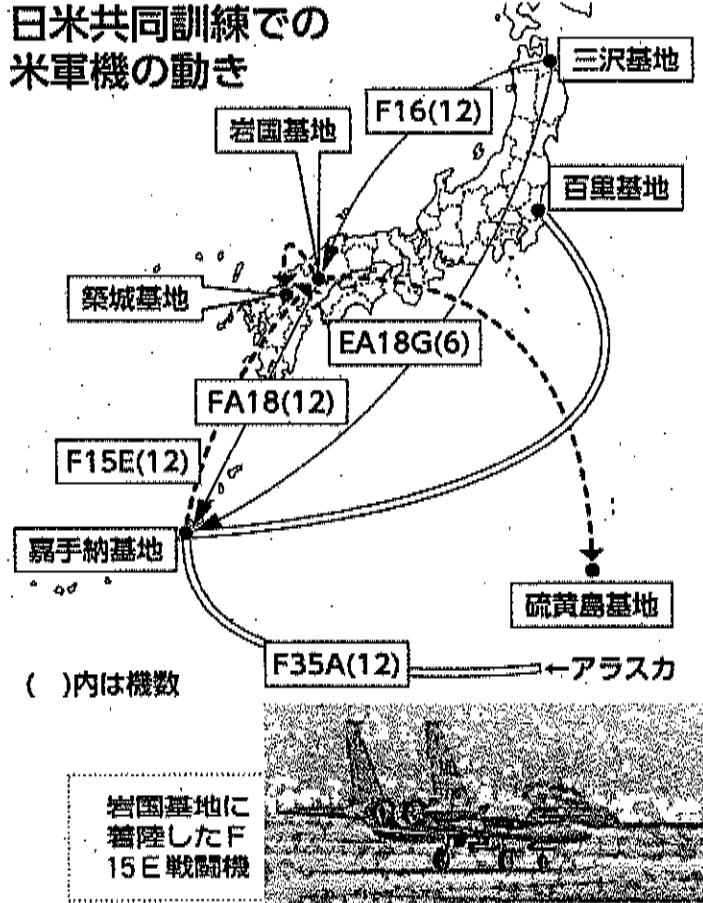
嘉手納基地からF/A-18G電子攻撃機6機が展開。嘉手納基地からは、米アイダホ州マウンテンホーム空軍基地から一時配備されているF-15E戦闘機12機が岩国基地に、F-35A 12機が航空自衛隊百里基地(茨城県小美玉市)に展開します。

沖縄県は6月29日、防衛省沖縄防衛局に対し「周辺の住民へ耐え難い航空機騒音被害を与える周辺住民のわざなる基地負担増大につながる」という理由で、嘉手納基地への外來機の飛来制限などを求めました。

三沢基地(青森県三沢市)からEA18G電子攻撃機6機が展開。嘉手納

基地から、百里、新田原(宮崎県新富町)、築城、那覇などに所属するF-2、F-15戦闘機などが参加します。

日米共同訓練での米軍機の動き



訓練で自走引くのが、破壊されることを想定します。まだ日本全国の米軍機の全国各地への機動展開です。中国との武力衝突で嘉手納基地などに部隊を残存させるACした訓練であり、岸田政権による安保3文書とばかりの戦術があるとみら体のものです。